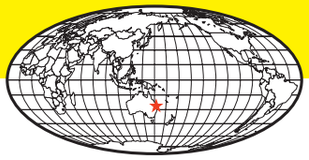
Brisbane



海外稲門会の躍動

Overseas TOMONKAI

登録稲門会 検索

現在、約70の海外稲門会が世界各地で活動しています。
海外に滞在する際は、現地の稲門会を検索して参加してみましょう。
※一部、活動休止中の稲門会もありますことを、ご了承ください。

ブリスベン稲門会

会長メッセージ

日本の約20倍と広大な面積、主要都市は世界の住みやすい都市ランキングの常連（2021年はブリスベンを含む国内4都市が世界トップ10にランクイン）、人口増加率の高さや、コロナ禍を除けば1991年以降右肩上がりのGDPと、誰もがうらやむ国、オーストラリア。その中で人口約260万人を抱え、シドニー、メルボルンに次いで第3の都市とされているのが、われらがブリスベンです。

鉱業や農業といった主要産業に支えられて堅調な経済活動が続く中、2032年夏季オリンピック開催都市にも選定され、今後さらなる成長が期待されています。ブリスベンの食と言えば何といっても広大な農地で育まれたおいしいステーキでしょう。あの有名なゴールドコーストも車で1時間ほどの距離にあり、海に山に内陸に、さまざまな生活スタイルをエンジョイすることができます。

駐在員、留学中の学生、永住組が当会の中心ですが、最近では本邦からの出張者や現役学生からご連絡をいただくことも少なくありません。皆さまも当地へお越しの際には、ぜひともご一報いただければと思います。

加納寛之（1991年法学、95年法研修）

会員からのメッセージ

15年ほど前までは、当地では納豆一つ買うにも車で1時間ほどかけてゴールドコーストへ。2012年に日本食材店が当地に出店する中、13年に当会発足。コロナ禍はあれども来豪邦人、訪日豪州人共に増加傾向、日本直行便も従来の毎日1便から3便となり隔世の感あり。時代も変わる中「集り散じて 人は変れど」、稲門会の名の下に同窓生が集い早稲田を感じる。当地で五輪開催の32年、母校150周年の節目に当会はまだまだ若輩ながら20周年を迎え、さらなる理想の光を追い求めてまいります。

森田紀彦（1992年政経）

ブリスベンに駐在して2年強。毎年10月ごろから青紫のジャカランダが咲き始め、枯れるころから暑くて長い夏が始まり、3月ごろから穏やかな秋冬を迎えるという、四季のサイクルを感じながら心地よい日々を過ごしています。

こうした日々に彩りを添えてくれるのがブリスベン稲門会であり、定期的に開催される懇親会やゴルフなどでのメンバーとの語らいを通じて、20年以上前のキャンパスでの日々を思い出しながら、異国での日々の活力を得ています。

相澤 譲（2003年政経）

懇親ゴルフコンペ。時には他大学との対抗戦も行う

定期的にブリスベン稲門会のイベントを開催できていることは、うれしい限りです。今、最も勢いのある海外稲門会の一つなのではないでしょうか。肩を組みながら校歌と『紺碧の空』を歌う時は、全員が「早稲田魂」を思い出し、一つになれる。日本から約7,000キロメートル離れていますが、ホームを感じられる、そんな環境に感謝しています。ブリスベンは2032年にオリンピック開催を控えており、多くの方々が来豪されるかと思います。その際は、ぜひブリスベン稲門会にもお立ち寄りください。

田中柾毅（2018年国際教養）

ブリスベンに移住して2年半が過ぎましたが、国内外からの移住者が増加している理由が分かってきた気がします。温暖な気候、イージーゴーイングな雰囲気、都市と自然のバランス、多彩なスポーツやアウトドア、アクティビティーなど、特に子育て世帯には垂ぜんの的となる生活環境です。飲んで校歌を歌う楽しさもさることながら、稲門会メンバーと子どもの日本語補習校でお会いしてまた輪が広がるなど、早稲田のつながりのありがたさを実感しています。

笠井理恵（2005年文学）

ブリスベン稲門会について

懇親会の最後に店内で校歌、『紺碧の空』を大合唱した後の晴れやかな1枚。特にイベントがなくても集まる

ブリスベン稲門会は2013年5月に設立され、活動期間は11年を超えました。設立当時の会員数は12人でしたが、現在の会員数は30人程度と絶賛勢力拡大中です。

主な活動内容は懇親会、歓送迎会、ゴルフなどですが、赤門会（東大）、三田会（慶應大）などとの交流も不定期で行っています。一大勢力を生かし、赤門会には「もう少し偏差値を下げてからでないと相手にしない」と息巻いています。

皆さまのおかげで『紺碧の空』の歌詞「理想の王座を占むる者 われ等」のごとく活動拡大中です。飲み屋の閉店後に店の音響を使用して、校歌や『紺碧の空』を肩を組んで大合唱するまでに成長しました。今後も設立趣旨である「早稲田大学校友・現役学生の集いの場として交流を図る」ため、ブリスベン稲門会の発展に努めていきたいと思います。

松井 証（2004年商学）

ブリスベンの魅力

シドニー、メルボルンに次ぐオーストラリア第3の都市ブリスベン。サンシャインステートと呼ばれるクィーンズランド州の州都であり、その魅力は何といっても、1年のうち300日ほどは晴天という安定した気候ではないでしょうか。緯度で見ればちょうど沖縄本島の反対側、暖かい気候の中で週末には庭や市内の無料設備などでバーベキュー、ちょっとした時間で川沿いのランニングを楽しむ人々をよく見かけます。2032年のオリンピック開催に向けて、市内では競技場や地下鉄などの建設工事が進んでいます。

そんな活気に満ちたブリスベンですが、ちょっとしたかわいさも持ち合わせています。第3の都市とはいいますが、有名ラーメンチェーンの出店では第4の都市パースに抜かれて未出店。オリンピック関連の工事も遅れがちで、このままで大丈夫かとやきもき。でもそんなことはお構いなしで、みんなそろって「No worries, mate」。オージーイングリッシュでは「ノーウォーリーズ、マイト」と発音しますが、要するに心配ナイナイ。温厚な性格の人が多いのが良いところです。

物価は総じて高めですが、シドニーやメルボルンと比較すると多少家賃は安く、オーストラリアでも都会感と絶妙な田舎感が融合した街。そんな憎めないブリスベンにぜひ一度足をお運びください。

松井 証（2004年商学）

（上）サンシャインコーストの海辺
（下）ブリスベンリバーの対岸から市内を望む

In Australia